

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：霊長類の腸内細菌から環境への適応を探る ILAS Seminar :Adaptation via gut microbiome of non-human primates			担当者所属 職名・氏名	理学研究科 准教授 半谷 吾郎		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・開講期	2026・前期集中	受講定員 (1回生定員)	8(8)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中 6月4日5限、6月11日5限、および9月中～下旬の3日間	教室	6/4、6/11 共北29		使用言語	日本語	
キーワード	霊長類 / 生態学 / 腸内細菌 / 野外研究 / 野生動物						
[授業の概要・目的]							
<p>霊長類学は、京都大学発の学問であり、野生霊長類を対象にした研究では、進化の隣人であるヒト以外の霊長類の生活の研究を通じて、「ヒトとは何か」という問いに迫る、さまざまな研究成果を上げてきた。この授業では、伝統的に行われてきた野外調査、飼育個体の観察、得られた試料の実験室での分析をすべて体験し、野外での野生霊長類の適応メカニズムに迫る、現代の霊長類生態学の最先端を体験することを目的とする。</p>							
[到達目標]							
<p>野生ニホンザルの生息地である石川県白山で、彼らの住処である森林を観察し、野外調査方法の基礎を習得する。京都大学犬山キャンパスの飼育ニホンザルを見学し、試料採取の方法と、腸内細菌を用いた試験管内発酵実験の手技を学ぶ。この方法を用いて、腸内細菌による霊長類の食性に関する適応について仮説を立て、そこから得られる予測を、実際に発酵実験を行って検証する。</p>							
[授業計画と内容]							
<p>この授業では、座学による学習（場所：吉田南地区の教室）を、前期授業期間中に2回行う。夏季休業期間中、犬山キャンパスでの実習および石川県白山での野外調査を行う。時期は9月中～下旬を予定するが、参加者の希望を聴取し、相談のうえで決定する。</p> <p>京都での座学では、霊長類の生態、特に採食生態学と腸内細菌研究について講義を行う。その上で、腸内細菌が生きている新鮮な糞便試料を用いた試験管内発酵実験について概略を紹介する。この手法を用いて、白山の野生ニホンザルおよび犬山の飼育ニホンザルを対象に、どのような研究を行うか、受講生のあいだで議論して決定する。</p> <p>犬山キャンパスおよび白山での実習は、合計3日間実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1日 午前10時までに集合。オリエンテーションののち、飼育ニホンザルを見学し、試料を採取する。得られた試料を用いて、試験管内発酵実験を開始する。 ・第2日 朝、犬山市を車で出発し、白山に向かう。野生ニホンザルの生息地を観察し、可能ならば試料採取を行う。午後、犬山に戻り、試験管内発酵実験を終了する。 ・第3日 得られた結果をまとめ、発表を行う。午後、解散。 <p>犬山と白山での実習は全日程参加を条件とする。</p>							
ILASセミナー：霊長類の腸内細菌から環境への適応を探る(2)へ続く							

ILASセミナー：霊長類の腸内細菌から環境への適応を探る(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況および発表会での発表と質疑の内容により評価する。授業への参加状況50%、発表50%で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特別な予備知識は必要としない。ただし、京都市右京区の嵐山モンキーパークいわたやまや京都市動物園などで、野生、および飼育霊長類について事前に観察しておくことが望ましい。

[その他(オフィスアワー等)]

健康診断書の写し(特にX線胸部間接撮影の所見)を持参すること。持参しなかった場合、ニホンザルの飼育エリアに立ち入ることはできない。
犬山までの交通費と宿泊費は本人負担とする。犬山から白山までの移動については費用は不要である。
なお、交通費は、新幹線利用の場合、片道7000円弱、宿泊費は、研究所併設の宿泊施設利用の場合、三泊で2370円。
学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

[主要授業科目(学部・学科名)]